

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>つの検討案で、コストが最優先されれば「第三案の他施設の活用」が効率的であることは理解しましたが、自然環境や機能面のメリット、市民の存続希望の声などを最優先した場合にできることとして、たとえば利用率を高めることで第一案、第二案の可能性があるのであれば、施設の老朽化や安全対策を行うことが前提ですが、これまで以上に、利用率を高めるための市民県民へのPR販促活動を期限付きで一定期間実施していただき、その結果を見て再検討していただくことを切に願っています。</p>	<p>営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>なお、施設の特性上、平日は主に学校での利用が想定されること、また、施設の立地上、自然教室以外の利用状況からは、市内の団体や家族・グループの利用は長期休業期間や3日以上の子連休での利用が多く、普段の土日の利用は少ない状況を鑑みると、PR活動により、他都市の学校や一般の利用が増える可能性はありますが、主な利用が他都市になる中、限りある財源である市税を投入し続けることは、同じく課題があるものと考えます。</p>	
54	<p>この地が危険な場所であるなら、この近郊に移転しても自然の家の再建を切に希望致します。</p> <p>子どもたちの自然に触れる学習は人間形成において必要不可欠なものです。現在は、子どもたちが遊ぶ近隣の公園等の自然もなくし、夏のプール授業の削減など、子どもたちの教育環境をもっと川崎市は真剣にお考えいただけないでしょうか、八ヶ岳と聞くと自然教室が出てくるほど、思い出で終わらせずに、何とか継続できるようにお願いします。</p>	<p>富士見町内での移転については、現地での再編整備における課題の一つである地形的な課題は払しょくされるものの、自然教室は他施設活用により実施していくこと、現在の施設における自然教室以外の利用の多くが、夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、他の敷地に移転する場合であっても、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地を新たに取得し、60年以上使用する施設を整備し保有することは、利用状況及びコスト比較の観点から難しいものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止します。</p> <p>なお、自然教室は、豊かな自然の中で様々な体験活動や集団行動を通じて、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いを思いやり、共に協力し合うなど、より良い人間関係を形成しようとする態度を育てる重要な教育活動の一つとして実施していることから、子どもたちが自然教室での活動や学びを通して成長できるようにすることが重要であり、そうした活動に全ての子どもが参加で</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>きるよう、学校の実情に合わせて実施場所や内容を選択する手法は、今の学校にマッチしているものと考えます。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
55	<p>川崎市元教員です。八ヶ岳少年自然の家は学校では学ぶことのできないたくさんの方のことを学んだり実感できます。このような貴重な学びができる少年自然の家の用途を廃止するという事には反対です。確かに、古い施設ではありましたが、ぜひ、建て直してほしいと思います。土砂災害の特別警戒区域だそうですが、今まで一度もそういう災害が起きるといった可能性について聞いたことがありません。そのような災害が起きた話も聞きません。急に出てきた話のように感じます。また、一部が、ということですから、全体に施設が建てられないということではないと思います。</p> <p>等々力緑地の再編整備で、川崎市は1,200億円もの巨額な市税を使おうとしています。緑地の再編整備では、子どもたちのための緑地という視点が全く見えません。大人向けの儲る施設ばかりをつくらうとしています。どうぞ、子どもたちのために大切な市税を使ってください。子どもたちの貴重な学習の場である八ヶ岳少年自然の家を、ぜひ再建してください。残してください。八ヶ岳少年自然の家の廃止に</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けているほか、設備機器についても多くが耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>また、他施設での実施結果からは、目で見て実際に触れるといった生きた環境学習や、教科での学習後に実際に体</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	は、強く反対します。	<p>験するといった学びを深める体験活動を行うなど、各学校の実情や教育課程を踏まえたプログラムを実施できていること、児童生徒へのアンケート結果からは、9割以上の児童生徒が他施設においても充実した活動ができたと回答しており、利用施設の違いによって、結果に大きな差がないことから、他施設であっても、自然教室の実施目的は達成できるものと判断しています。</p> <p>今後も、自然教室を通して、子どもたちがより豊かな体験や経験ができるよう、しっかりと取り組んでまいります。</p>	
56	デイケアのキャンプなどで利用したことがあり、なくなるのは大変に残念に思っています。ですが、安全性などを考えると廃止は避けられないのではと思います。	<p>八ヶ岳少年自然の家については、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止します。</p>	B
57	川崎市在住ですので、八ヶ岳での自然教室が川崎市の小学生にとって当たり前のもので思っていました。が、老朽化が進んでいること、災害リスクなどでの改修が必要だがコストがかかることを考えると、子どもと自然教室で同じ経験の共有ができないのは残念ですが、廃止も止むを得ないと思います。		
58	小学校、中学校の子どもがいますが、八ヶ岳少年自然の家の利用を止め、他施設の利用をすることには概ね賛成です。今後気になる場所として、利用中止後の自然の家の施設をどうするかが気になります。放置となり、不法侵入者や不法投棄の温床になるのは避けたい。	<p>八ヶ岳少年自然の家の跡地については、自然教室の他施設移行が完了し、施設設置条例の廃止予定である、令和10年度を目途に、富士見町の意向等も確認しながら、あり方について検討を進め、方向性を決定いたします。また、敷地については、適切な管理について検討していきます。</p>	C

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
59	川崎市元教員です。現職時代、数多く八ヶ岳の施設を利用してきました。川崎から近く、自然がいっぱいで、こんなに広々とした施設は他にはないとも思っていました。 廃止になったら、アストロハウス、天体望遠鏡はどうなるのでしょうか。	八ヶ岳少年自然の家については、当該敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されているという地形的な課題のほか、他の敷地での移転整備も含め、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。 このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、アストロハウスも含めた跡地については、自然教室の他施設移行が完了し、施設設置条例の廃止予定である、令和10年度を目途に、富士見町の意向等も確認しながら、あり方について検討を進め、方向性を決定いたします。	D
60	小中学生で1回ずつ宿泊行事で使用し、高校では地学部の宿泊行事で毎年使ってきました。特にアストロハウスは、日本で見ても貴重なほど、重要な設備です。とても高性能な機器を用いて行う星空観察は、非常に貴重な経験であり、小さい頃の星を見た思い出としても深く心に刻まれています。ぜひ残してもらいたい。		
61	八ヶ岳少年自然の家は、小学校の自然教室に加え、高校の地学部での合宿で2回、計3回利用したことがあります。少年自然の家は、自然教室のためだけの施設ではありません。特にアストロハウスはなんとしても残していただきたいです。アストロハウスは私にとって天文学、ひいては科学への入り口でした。後輩に扉を残したいのです。私たちから宇宙を取り上げないでください。		
62	アストロハウスと宿泊施設を継続してほしい。		
63	アストロハウスは大変有用な施設であるため、アストロハウスと一部宿泊施設は残して欲しいです。		
64	アストロハウスおよび宿泊施設は大変有用な施設のため、これからも継続してほしい。		
65	八ヶ岳少年自然の家について、アストロハウスと併せて一定規模の宿泊施設を残していただけますようお願いいたします。 アストロハウスには、口径20cmの大型天体望遠鏡が4台も設置されている、類稀な施設です。天体観測に最適な標高の高い八ヶ岳の澄んだ空気と美しい星空の中、これらの望遠鏡で様々な天体を観察できます。初心者にとって敷居が低だけでなく、4台同時稼働すること		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>で短時間で効率よく天体の観測ができる等、極めて効果的に天文に関する学習ができます。これに匹敵する施設は他に類を見ません。この場所で沢山の学生さんや社会人の方々が星空のことを学び、天文学への興味や関心を育み、またその経験を後輩に伝えてまいりました。これからも、自然の中で天文学に触れ、学び、感動する機会の提供を、ぜひとも継続していただきたいと願います。</p>		
66	<p>青少年科学館で天文サポーターのボランティアをしています。また、40年来、星を見るお手伝いを八ヶ岳でさせていただいてきました。</p> <p>八ヶ岳という星を見るには絶好の場所で、生田緑地のメガスタープラネタリウムと連動して、子どもたちに星を見せてあげられる環境は、ぜひ残していただきたいと考えます。子どもたちのアストロハウスでの、「リアル」なプラネタリウム体験は、何ものにも代え難いものです。また、常設のクーデ望遠鏡、スライディンググループというアイデアは、他に例を見ない画期的なものであると認識します。</p> <p>一方で、宿泊棟などの老朽化などを考慮すると建て替え等は必要と認識されるものの、ぜひアストロハウスを存続させる形での、検討が必要であると思います。また、生田の青少年科学館との連携による活動など、より積極的な活用方法も検討できるものと思います。</p>		
67	<p>小学生の時に自然教室で、八ヶ岳に行った自身の感想としてはすごく残念に思いますが、それなりのリスクがあることも理解できました。アストロハウスについて、完全に利用不可の状態になってしまうのはもったいないと考えております。</p> <p>よく、かわさき宙と緑の科学館を使用させていただいておりますが、科学館の所有するアストロテラスは八ヶ岳少年自然の家のアストロハウスがもととなっていると伺っております。実際、同じようなスライド式の施設であり、20cmの反射望遠鏡が導入されております。かわさき宙と緑の科学館での観望会でも星は見ることは可能ですが、やはり八ヶ岳とは違います。私が小学生の時の感想も含んでしまいます</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>が、授業にプラスしてメガスター（プラネタリウム）を用いて星について学び、土日に足を延ばして科学館に来訪するとより詳しくたり実際に眺めたりといった体験ができ、自然教室で（もちろん天候に左右されますが）自然の星を見る、というのはなかなかできない体験だと思います。施設が変わっても天体観測は可能かもしれませんが現状の20cm望遠鏡4台がある環境を、位置と手放してしまうと、今後取り戻すのは不可能に近いと思います。</p> <p>アストロハウス自体は土砂災害リスクのない箇所に建てられているということもあるので、天体観測可能な市の施設として存在してもらえると、意義が大きいのではないかと考えます。</p>		
68	<p>家族で年2～3回利用しています。四季を感じられる良い場所、星空観察できる施設、自分のことは自分でやるスタイルと、子どもと一緒に行くのに大変重宝しています。</p> <p>川崎市民として引き続き利用できるように、存続の検討をしていただけると嬉しいです。例えばクラウドファンディングや、ふるさと納税等利用するとか、どうでしょうか。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けているほか、設備機器についても多くが耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期</p>	D
69	<p>市外在住・在勤ではありますが、かつて市内の中学校に通い、所属していたスポーツクラブの選手・指導者として利用していました。施設の維持保全について、土砂災害特別警戒区域に指定されている部分は閉鎖または縮小する、ソーラーパネルを設置し電力使用量の節約に取り組む他、施設の資材・備品については、クラウドファンディング等で広く募集してみたいでしょうか。</p>		
70	<p>八ヶ岳少年自然の家は、とても衛生的でかつ、子どもに合わせて様々な自然体験ができる場所、何をすることも子どもファーストで対応してくださる素敵な場所です。</p> <p>クラウドファンディングなど、どうにか存続する方法はないか再度検討していただきたいです。</p>		
71	<p>八ヶ岳少年自然の家は、小学校の自然教室に加え、高校の地学部での合宿で2回、計3回利用したことがあります。少年自然の家は、自</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>然教室のためだけの施設ではありません。特にアストロハウスはなんとしても残していただきたいです。クラウドファンディングなどで存続のための資金を募ることはできないでしょうか。</p>	<p>休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止します。</p> <p>なお、現地での再編整備については、毎年、他施設での実施より約1億7千万円多く費用がかかることから、クラウドファンディング等により毎年安定的に財源を確保することは難しいものと考えます。</p>	
72	<p>中学1年生です。老朽化や土砂災害特別警戒区域に指定されていることに関しては、施設を新しく建て直したり、今あるものを移動させたりすることは、SDGsの面で考えると、あまり良いことではないように思います。老朽化で、施設を修繕する必要があるのであれば、クラウドファンディングなどで、お金を集めれば、私と同じような意見の人が、たくさん寄付してくれると感じます。</p> <p>繰り返しになってしまいますが、私は少年自然の家はあの場所で、あの空気が味わえるように残ってほしいと考えます。</p>		
73	<p>川崎市の元教員です。現職時代、数多く八ヶ岳の施設を利用してきました。川崎から近く、自然がいっぱいで、こんなに広々とした施設は他にはないとも思っていました。</p> <p>自然教室施設の廃止に断固反対します。どうしても廃止するならその理由を市民が納得するように説明してください。施設の老朽化を理由に廃止にするのはあまりにも無謀すぎます。木造施設ですので作り直すことは可能です。</p> <p>また、一部が土砂災害危険区域に指定されたことも理由の一つとありますが、施設ができてから一度もそういった事実はありません。かなり大雨の時に泊まったこともあります。次の日には雨水が引けて、何も支障はありませんでした。廃止の方針は老朽化、レッドの指定、コストの理由の他に何かあるはずです。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体等の老朽化が著しい状況で、劣化調査結果からは、木造の宿泊棟は改築等の対応が必要であるとの判定を受けているほか、設備機器についても多くが耐用年数を超過しており、施設を継続して使用するには、抜本的な老朽化対策が必要ですが、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がな</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>くなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p>	
74	<p>本政策について、非常に強い懸念を覚える。第一に、本政策の合意形成のあり様について市当局の強引さを感じる。市の施設、それも社会教育施設の廃止をめぐるものであるが、適切に社会教育団体へのヒアリング調査はしたのか、また子どもの権利条例に則った形で子どもの意見などを聞いたのか疑問が残る。</p> <p>昨今、国は社会教育法の改正を視野に、中教審へ諮問を行っており、社会教育は人口減少や少子高齢化社会のなかでその役割をますます重視されてくる。であるならば、廃止するのであれば、やはり長い時間をかけて行うべきものと考ええる。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家の再編整備については、敷地の一部が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定されており、地球温暖化等の気候変動や線状降水帯等の異常気象等を踏まえた地形的な課題、それによる将来的に予測困難な災害リスク等を考慮すると、60年以上使用する施設を再整備し、子どもたちを行かせ続けることは、長期的な安全性の確保の観点から、課題があると考えています。</p> <p>その他、コスト比較や持続可能性の観点、更には、学校の実情に合わせた柔軟な学びのかたちへの変化等を総合的に考慮し、今後、自然教室については、他施設の活用により実施することとし、それに伴い、八ヶ岳少年自然の家については、利用の8割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があることから、総合的に勘案し、青少年教育施設としての用途を廃止いたします。</p> <p>以上のことから、考え方策定に当たり、八ヶ岳少年自然の家での自然体験活動等の状況について、青少年育成連盟</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
		<p>加盟団体等とのヒアリングや利用団体に対しアンケート等を実施したほか、子どもからは、他施設における自然教室での実施について、活動の充実度等を確認しておりますが、施設廃止の判断については、長期的な安全性の確保等、総合的に勘案して判断したものです。</p>	

(3) 青少年育成連盟加盟団体やその他利用団体の活動に関すること (8件)

	意見 (要旨)	市の考え方	対応区分
75	<p>ボーイスカウトです。八ヶ岳少年自然の家は長年、夏のキャンプや冬のスキー訓練で利用しています。今般の老朽化に加えて土砂災害特別警戒区域指定という状況では、今後継続しての利用は困難だと思います。</p> <p>一方、青少年育成の場として、自然に触れ合い、その中で創意工夫しながら野外活動をするには非常に大切だと考えます。自前の自然の家設立が難しい場合、他県あるいは国公立の施設利用が比較的優先的に実施することができれば、その代替手段になろうかと思えます。現状では、他県あるいは国立の施設利用時には優先順位が低く、簡単には予約・利用することができない状況です。複数施設の優先利用をお願いしたいと思います。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、ボーイスカウトをはじめ、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	D
76	<p>ガールスカウトです。市内の学校が神奈川県内等の施設を利用し、教職員の負担軽減に成功していることを鑑みると、利用者の14.7%のために施設の存続や代替施設の建設は、支出の公平性の観点から難しいと感じました。長年利用してきた施設の閉鎖は寂しく、残念ではありますが、案に賛成します。</p> <p>一方で、施設が廃止され、代替施設も建設されないのであれば、影響を受ける青少年団体の宿泊を伴う自然体験活動を支援する目的で、往復バスの借り上げ料を補助する助成金の創設を希望します。</p> <p>ガールスカウトは、普段から神奈川県内の自然体験施設を利用して活動しております。そのため、夏や冬のキャンプは、神奈川県内では体験できないような自然の中で過ごせるように遠出をします。</p> <p>私共はボランティアで構成される青少年団体ですので、キャンプ等は子どもたちから実費を集めて、節約しながら、自然体験活動を推進しておりますが、近年の物価高騰で、参加費の値上げをせざるを得ない状況です。特に課題となるのが往復バスの借上料の高さです。20名程度で移動しますので、公共交通機関を利用するよりバスの方が安全で費用も抑えられます。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、ガールスカウトをはじめ、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	D

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>近隣の目黒区では、区内の青少年健全育成団体に対する同種の助成があります。川崎市でもぜひ市内の川崎市八ヶ岳少年自然の家利用団体の自然体験活動を支援する助成金創設をご検討いただければ幸いです。</p>		
77	<p>八ヶ岳少年自然の家が、長年にわたり地域における子ども会活動に果たしてきた役割について、市としてどのように評価されているのか、ぜひ伺いたいと考えます。</p> <p>同じ施設で、同じ体験を繰り返し共有してきたことにより、子ども会の役員同士に強い絆が生まれ、その関係性が先輩役員から後輩役員へと自然に引き継がれてきたと感じています。もし、自然教室や青少年活動の実施場所が年度ごとに変わるような形になった場合、これまでのような体験共有による理解や連帯感は、同様に育まれるのでしょうか。こうした継続的な体験の共有がもたらしてきた地域的・社会的な価値について、市としてどのように捉え、今後どのように担保していくお考えなのか、お示しいただければと思います。</p>	<p>八ヶ岳少年自然の家については、昭和 52 年の開設以来、多くの市民にとって共通体験の場となっており、当該施設が子ども会活動に果たしてきた役割については、大切なものであると認識しています。</p> <p>一方で、令和 6 年度実績で、自然教室での利用以外に、子ども会をはじめとした団体利用、グループ・家族利用がありますが、今後、他施設活用により、利用の 8 割近くを占める自然教室での利用がなくなること、自然教室以外の利用の多くも夏休み等の長期休業期間や休日であり、平日の利用は少なく偏りがある状況を踏まえると、今後、利用者が大幅に減る中、市が土地及び施設を所有し、指定管理による運営を行うという現行の形態のまま、施設を維持し続け、維持管理経費を負担し続けることには課題があるものと考えます。</p> <p>このような状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、施設閉止予定である令和 10 年度までは、引き続き利用可能です。</p> <p>なお、青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、子ども会をはじめ、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用</p>	D
78	<p>今回の八ヶ岳少年自然の家についての報告、とても寂しく思いました。私はずっと地元で、子どもの頃から、大人になっても子ども会運営に関わっていたので、何度も八ヶ岳に泊まりました。</p> <p>様々な条件もあり、続けて行くのは難しいのは理解できます。ただ、対価として同様の利用料金で泊まれる施設を望みます。川崎市なら達成できると思います。今後は期待しています。</p>		
79	<p>子ども会が別施設を予約しようとするると 6 か月前に（1 か月前というところもあります）やっと先着順や抽選で予約ができるといった具合で年間予定が組めない。</p> <p>また、利用料については、市からのバス代補助もあり、二泊三日の研修を 1 人あたり 10,000 円ほどで行っていますが、別施設を利用する場合は自然の家より大きく金額が上がり、現状の研修参加費では実現不可。仮に YMCA 三浦で一泊するだけで 10,000 円超えとなります。この場合、バスは使用せず電車と徒歩利用です。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
	<p>青少年育成を目的としている子ども会としては、学校と同じように早くから予約でき、利用料、バス代金の補助がないと現状と同じ研修ができません。子育て支援に力を入れているのは口ばかり？と疑問にさえ思います。他施設への予約の優先枠、利用料の補助金が出ないのであれば、川崎市としての宿泊施設の確保を強くお願いします。</p> <p>建設費がかかるのは仕方ない、等々力や富士見公園などの改修は出来て、なぜ八ヶ岳はできないのか？出来ないならば青少年育成団体を学校と同程度の扱いとしてもらいたい。切に訴えます。学校以外の居場所として私たちの研修会に参加し、期待している子どもたちへ市として考えるべきかと思います。もちろん、市内の子どものほんの一握りしか参加していない。という意見もあるでしょうが、今参加している保護者も小学校時代に参加し、八ヶ岳に行った方も多いです。市の大切な財産かと思います。</p> <p>個人的な意見としては、八ヶ岳や自然のある場所へ新たに土地取得と新施設建設が希望ですが、他施設利用の優先予約など、活動に支障のない配慮を求めています。</p>	<p>に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	
80	<p>この施設を廃止するのであれば、青少年育成団体も安定して野外活動の計画を立てられる施策を検討していただきたいと願います。</p> <p>地域の育成では活動では年齢・学年ごとにステップを踏んで成長することを指しますが、年間計画ができなければ、年度ごとに利用できる状況が変わってしまうので継続的な異年齢間の伝達も乏しくなってしまう。経験ではなく受動的な「体験」だけの研修になるのではと危惧しています。また毎年検討しなければならぬ状況では地域のボランティアが疲弊し、活動に協力してくれる新たな人材確保がより難しくなると。</p> <p>個人的な希望としては、廃止をしてほしくないと願いますが、川崎市の青少年団体が年間計画を立てられるような方法をお願いしたいです。</p>		

	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
81	<p>現在の施設の再整備や移転に多額の費用がかかるため、自然教室は他施設を使用する方向性としてはよいと思います。</p> <p>自然教室以外で使用している市内のファミリーや青少年団体への配慮は必要で、八ヶ岳は格安で優先的に予約を取ることができていたので、他施設でもできるようにしてほしいです。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組んでまいります。</p>	D
82	<p>本政策について、非常に強い懸念を覚える。優先的な予約についての取り組みが記されていない点である。市が多様な施設を紹介するのは当然のこととして、そうした施設がいったいつ、どのように予約ができるのかという点は記されていないように感じる。</p> <p>ほぼ対案がない中で、こうした合意形成がなされることに強い不満を感じる。</p>	<p>青少年の自然体験活動は重要であることから、これまで八ヶ岳少年自然の家を利用していた団体が行ってきた自然体験活動が今後も円滑に実施できるよう、他都市施設の紹介や市内の公共施設等の利用促進に取り組むとともに、本市の施策推進に協力いただいている青少年育成連盟加盟団体等については、他都市施設を円滑に利用できるよう働きかけを行うといった他施設活用に向けたマッチング支援など、市として支援策を検討いたします。</p>	D

(4) その他(2件)

	意見(要旨)	市の考え方	対応区分
83	<p>現在、今後12年を見据えた教育プランが検討されており、その第一に「探究的な学びの充実」が掲げられています。子どもたちが自ら問いを立て、世界を深く見つめる力を育てていくという方向性は、これからの教育にとって大きな柱となるものです。その探究の舞台として、八ヶ岳少年自然の家が持つ存在感は、今後さらに増していくと感じています。朝の冷たい空気、森の匂い、足元の小さな生き物の動き——そうした“本物の自然”に触れる体験は、子どもたちの中に静かに、しかし確かに問いを芽生えさせます。</p> <p>八ヶ岳少年自然の家は、「探究的な学びの充実」のテーマと深く結びつくアクティブラーニングのフィールドとしても極めて有力な教育資源として位置づけられるのではないのでしょうか。</p>	<p>各学校の実情に応じて、自然教室を通して、「探究的な学び」を深める教育課程を組む場合も想定されます。自然体験は、子どもたちが自ら問いを立て、学びを広げる契機となる重要な機会と考えており、自然教室の実施目的と同様の学びは、他施設を活用することでも達成できるものと判断しています。</p> <p>また、現状、各学校においては、市内公共施設のほか、様々な地域資源を活用し、「生活科」や「社会」、「総合的な学習」等の課程において、自然に触れる体験活動や特色ある探究的な取組が行われています。</p> <p>今後も、こうした取組を尊重しつつ、自然教室を含めた多様な学びの場を活かして、子どもたちの主体的な学びを支援してまいります。</p>	E
84	<p>法人として、子どもたちの自然体験活動の場として年間数回利用しており、個人としても年に何回か利用しています。</p> <p>川崎市の友好都市である富士見町に施設があること。法人としては子どもの健全育成活動を主旨としているため都市間交流もでき非常にありがたく思っております。以前の意見徴収でも記載しましたが友好都市について何故資料では触れられていないのでしょうか？</p> <p>友好都市との都市間交流を民間として継続的に実施したいと思っておりますので、富士見町内での存続を願います。</p>	<p>御指摘に基づき、富士見町とのこれまでの友好都市としての交流や本方向性に関する富士見町への説明の状況等について、本編に記載しました(61頁及び65頁参照)。</p> <p>富士見町とは、平成5年の協定締結以来、双方のイメージアップや文化芸術・人材等の相互交流など、様々な機会を通じて、長年に渡り、友好都市として良好な関係を構築してきました。</p> <p>様々な状況を総合的に勘案し、八ヶ岳少年自然の家については青少年教育施設としての用途を廃止しますが、今後についても、友好協定書に基づく継続した交流は重要であると考えていますので、引き続き、それぞれの地域特性を生かした効果的な交流促進に努めてまいります。</p>	A